

山寺ふるさと便り =第7号=

宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 山寺公民館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会

いのち
生命を育む

立谷川の
清流に



「立谷川」で学ぶ

「私たちの住んでいる山寺を流れる立谷川の清流を守るため、地区と小・中学生がいつしよになつて環境保全活動をしよう」という目的で様々な活動が行われた。

最初は六月二十七日、山寺小一・二年生が、県溪流釣り協議会の協力で、体長約七センチのサクラマス稚魚千匹を山寺橋下の立谷川に放流した。「大きくなつて帰ってきてね。」と話かけながら放流する子供たちは皆目を輝かせていた。

また七月二十二日に、小・中学生と山の寺子屋の共同企画で立谷川の水質調査を行い、川の中に住んでいる生物やパックテストを用いて時間毎の水温、COD、PHを測定した。

その後何度か調査活動を行い、十月二十七日、地区との合同文化祭で調査結果を発表した。

児童・生徒の声

○立谷川にいる生物は、きれいな水に住む生物とわかり、これからもずっときれいな川にしていかなければと思った。堀川一哉君(小六)

○長期的には立谷川系の水はきれいであるが、季節や時間的な変化によつては、あまりきれいでない時があるようなので今後また調査を続けていきたい。後藤雅俊君(中二)

(註) CODは有機物の有無で水の汚れを調べる

PHは酸性・アルカリ性の度合を調べる指数
(中性はPH7)

さくらんぼ
・やまでら天台のみち



垂水不動尊



塩岩

参加者の声

日が経つ毎に、又もや山寺を訪れてみたい思いを強くしております。初めてのウォークラリーも、そして美味しかった竹の子汁も、午後のコースに選んだあの素晴らしい宝珠山を一望に出来たコース等のすべてがこれからの自分に、常に何かを指し示してくれそうな気がします。お土産に頂きましたサクランボは甘くおいしく、記念写真はあの日の思い出を語ってくれています。ありがとうございました。

宮城県玉造郡岩出山町

佐藤 あや子さん



体験観光に参加された皆様



名取市 井田ひな子さんのお礼の絵手紙

宝珠のしづくに寄せて

このたびは「宝珠のしづく」(第六号)をお送りいただき、ありがとうございます。山寺地区の生き生きとした様子が分かり、地区のみなさまの熱気が伝わってくるようです。私まで記事にしていただき恐縮しております。館長さんはじめ、編集に当たられたみなさまに、お礼申し上げます。

元山寺小・中学校長 木村 康二氏

昭和六十年から五年間、保健師として山寺地区を担当させていただき、地域の方々には大変お世話になりました。感謝申し上げます。静寂の中にも凜とした雪の山寺路を踏みしめての家庭訪問や夏季学生村に向けて、観光課の職員と共にジープで出かけて実施した健康相談、調理実習等々、「宝珠のしづく」を読ませていただきながらあの頃を懐かしく思い出しております。

山形市保健センター所長
青嶋智重子氏

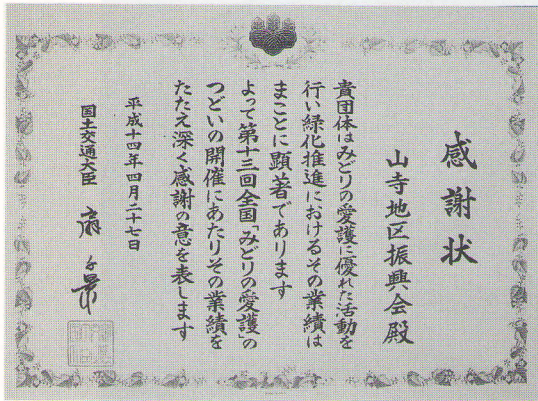
平成14年
(2002年)

地区ニュース

山寺地区振興会が 国土交通大臣の表彰に輝く

平成十四年四月二十七日新潟県長岡市で開催された、第十三回全国「みどりの愛護」のつどいに於いて、みどりの愛護と緑化推進の業績が認められ、扇景国土交通大臣より感謝状が授与されました。

会員は平成八年より地藏堂追分花壇づくりとして、土壌改良作業から水掛け、除草、花がら摘みなど、毎日継続して活動しています。
これに伴って山形市長より感謝状もいただきました。



祝 開通 大森トンネル・大森赤石橋

平成十四年十一月十四日、村山東部地区広域農道、通称「スーパー農道」の大森トンネル・大森赤石橋が開通しました。開通式典は、行政側関係者をはじめ、多数参列し、熱い祝賀に満ちた中で挙行されました。
山寺・高瀬地区消防団による祝賀紅白放水は、この農道にかけの期待の大きさを象徴するかの様に晴れやかな彩を添えていました。



橋の欄干の山寺側レリーフ



高瀬側レリーフ

設計・仕様

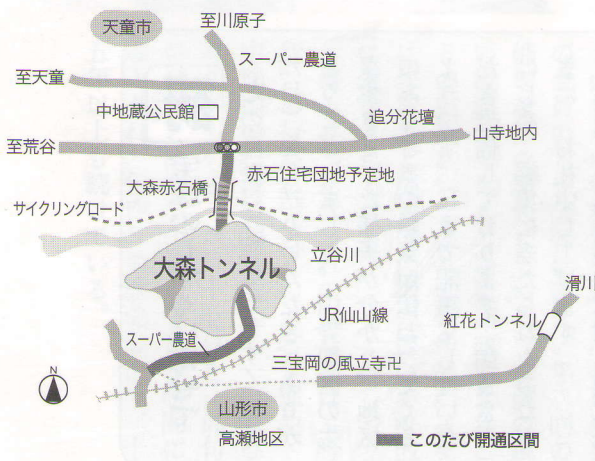
大森トンネル	大森赤石橋	農道整備 (山形市滑川～天童市川原子)
延長 343.0m	延長 106.0m	総延長 23,651.0m
車道幅員 6.0m	車道幅員 7.0m	全幅員 8.0m
歩道幅員 3.0m	歩道幅員 3.5m	

『スーパー農道』開通は、今後、沿線地区、特に我が山寺地区振興発展へ大きく寄与すると思われます。
まず、この農道沿線果樹地帯の宮城、山形中心部への交通の便がもたらす流通効果が大きく膨らみます。
さらには、『観光』振興への期待です。観光地『蔵王・天童温泉・山寺』を結ぶ接続道路は、大幅な観光誘客増が期待されます。
また、この開通は、今、構想進行中の『赤石住宅団地』造成にも役立つものと思われます。
こうした多くの願いを実現すべく、今後山寺地区民が結束して話し合い、活動していくことを、関係各位が強く

く望んでおります。
また、山寺地区民の願いと関係者の尽力で中地藏地内農道・県道交差点に信号機が設置されました。この山寺『初の信号機』は、山寺地区の振興、交通安全のシンボルとして見守り・点滅し続けることでしょう。



消防団による祝賀紅白放水



対面堂の建立



山寺発祥の由来を記念する対面堂が対面石前に建立された。

山寺は慈覚大師と磐司磐三郎がここで会見し、宝珠山を佛のお山にすることを決めた事に始まる。そのお二人の像を安置し、永くその偉業を伝えようとの趣旨である。

これを提案した山寺文化保存会では、芦沢の柏倉勉氏作・磐司の像に加え、真室川町の小野初吉氏に大師の像を刻んでもらい八月七日の磐司祭に堂の完成落成式を開催した。地区民挙げての資金協力によるものである。当日は、開眼供養を始め長瀬のし踊り、夜行念佛の声明、磐司太鼓の演奏等で祝賀会を盛り上げた。

十周年 女声合唱団「ふうが」

女声合唱団「ふうが」は、平成四年にべにばな国体の採火式アトラクションに出演する為、江口先生指導のもと結成された。平成九年に川辺先生がその指導を引き継がれ、昨年十周年を迎え、十二月一日に風雅の国で記念コンサートを開催した。

その間、県社会音楽祭等で数々の賞を受賞し、年々その歌声にみぎをかけてこられた。コンサート当日は、会場あふれんばかりに人が集まり、団員の皆さんのすばらしい合唱に、拍手がなりやまなかった。

代表の柏倉さんのコメント。

「地区の皆様よりご声援をいただき成功に終わり深く感謝申し上げます。一人では何も出来ないのに、全員が協力し合い、一丸となって仕事を分



グループ発表

担し、全うしたことは私たちにあって、大変勉強になりました。『ふうが』は、ハーモニーに満ち満ちて心が晴れ晴れと、何ものにもかえがたい大切なものです。」

今後の団員の皆様のご活躍を願ってやみません。



コンサート風景

芸工大生

「観光山寺」に提言

昨年の十一月から始められた東北芸術工科大学の学生による「新たな観光の在り方」の研究成果が「問題提起」と「アイデア提案」という形で、十二のグループより発表された。

聞き入る地区の方々、観光協会の会員には、厳しい指摘もあり今後に多くの課題を与えるものとなった。

しし踊り

山寺文化祭実行委員会は、文化祭の一環として、小学生の演ずる「山寺物語」の中にある「しし踊り」の本物を見たいという希望をもとに、高瀬地区の「鹿楽招旭踊」を小・中学生と地区の方々に見てもらう事とした。山寺実年会からのご協力をいただき、高瀬の鹿子踊保存会にお願いをして、九月二十二日に山寺小・中学校の体育館で実演された。当日は小・中学生や地区の方々から大勢集まっていた。迫力ある踊りに皆目を奪われた様子で、盛会裡に終わることができた。



教育講演会

「子どもは家庭の宝 地域の未来」

十四年十一月二十二日に山寺中学校学習センターで、天童市教育委員長・武田良一先生を講師に迎え、「子どもは家庭の宝、地域の未来」の演題で教育講演会が行われた。

昨今、児童虐待や少子化が大きな社会問題となっている中で、本来子どもは素晴らしい存在で、わが子も、隣の家の子どもも、隣町の子どもも、地域の子ども、国の子ども、遠い国の子どもも、みんなが、わたしたちの未来を背負った、わたしたちすべての子どもです。その子どもたちに生きる喜びと希望を与え、持っているすばらしさを存分に伸ばしてやるのが、わたしたち大人としての努めでもある。と、身近にあった事例を例にあげられ、子育ての大切さをお話された。

多くの参加者も頷きながら、熱心に耳を傾け、とても感銘深い講演会だった。



奉仕と感謝

三つのおれしい話

●山形市の中でも山寺は雪の多い地区である。十四年三月の事、芦沢の石山房子さんから山寺小学校の六年生宛に次の様な手紙があった。

「こんにちは」と明るい声、出てみると小学生の男の子、

「雪かきをさせてくださいませんか」なんと言う新鮮でこちよい言葉でしょう。うれしさに戸惑いを覚えながらも裏口から道路までの雪かきをしていただきました。終わると更に「もつとやる所はありませんか。あったら言つて下さい。」というのです。私はもうすっかり感激してしまいました。……

石山さんは視覚障害者で、この手紙は介護実習生の佐藤さんに代筆してもらったのだとの事

この話は山形新聞の「ほのぼの伝言板」に取りあげられ、またその後、同紙「談話室」でも紹介され読者に爽やかな感動を呼び起こした。

●十四年十一月八日の山形新聞に「山寺中学生がボランティア」という見出しで、全校生徒が山寺の名所を案内する観光ボランティアに取り組み続けているという記事があった。案内を受けた観光客からは御礼の手紙には、「地元の人ならではの貴重な話が聞

けて、うれしかった。」

「子どもたちに元気をもらって奥の院まで参拝できて良かった。」など多数届いている——と。

●山形市提唱の「男女共同参画社会」の意見に優秀賞をいただいた柏倉恵子さんの報告——

中学一年生の子に笹巻づくりを教えたがその後、男生徒のお母さんからお礼の言葉と共に、「息子がね、笹巻きを作つてあげると言うんですよ。」というのを聞いてヤッターと嬉しかった——と。

山寺は子どもも大人もお互いに奉仕の行いで接し、感謝の心でくらし、そういう事を自慢したくなる温かい地区である。



楽しい五七五教室

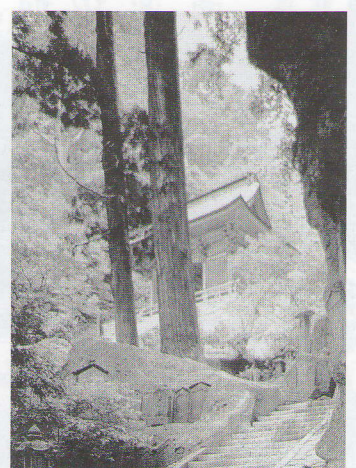
山寺小中学校では地元山寺蕉風会の会員の方を講師に迎え、年二回の俳句教室を開催している。子供の鋭い視線から大人の目には捕らえることの出来ないすばらしい作品が次々に作られ、短冊や色紙に書いて校内に展示されている。

澄みきった秋晴れの日などは「吟行」も行われ、近くのぶどう畑や、宝珠山の石段に腰下ろして一句をひねる子もいる。毎月十七日を「俳句の日」と決めて、総合学習の時間に導入され、句作りの歴史も古く、十五年以上も続けている。

銘木倒れる

十四年十月二日の台風で、仁王門前の左の杉が倒れ、右の一本だけになった。これまで山寺風景の看板だったのだが、誠に残念である。

芭蕉さんも眺めたであろうお山の大杉は明治の中頃、台風で倒れたと伝えられるが、それより惜しい。

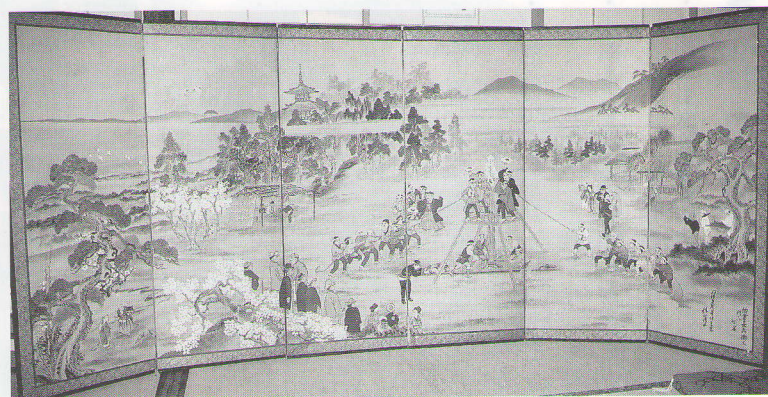


山寺の文化財⑦

土搗きの屏風

柏倉善彦氏蔵

明治七年旧県庁の建設に際し土台を固める為の「どんづき搗き」が行われた。各地区より「木やりかけ」（どんづき搗きをする人達を盛り上げ、励ます歌を唄う人）の名人達が集められその腕前を競った。それぞれの場所に分かれ「どんづき搗き」が始められたが、中でも山寺の柏倉長兵衛エさん（善彦氏の先祖）の「木やりかけ」があまりにも上手で、周辺にいた人達も次第に長兵衛エさんの所に集まって来て、他の所の「どんづき」よりもすばらしいと大喝采を浴びたという事です。



おらが地区

宮崎

当地区は山寺七院の一つである安養院があったので、安養院という地区であった。現在の宮崎と言う地名はいつの頃から言われ始めたかは不明であるが、八王寺宮の先（日枝神社、立石寺より見て）だったのが宮崎となったという説がある。安養院の跡地には、明治三十七年三



水神

月に山寺小学校が建設され、教育の中心地となった。平成六年四月には山寺公民館が新築され地区のセンターとして大いに利用されている。宮崎の高嶺堰側に立てられている「水神」の石碑は水が涸れないよう、自然を大切にしたい祖先の願いがこめられた貴重なものである。

おめでとー 金婚さん

後藤さんご夫妻（千手院）



高校卒業後埼玉の農業専門校へ進み、消防団長、壮年会長、実年会長の職を経て、老人クラブの副会長、中性院の副総代等をしています。おばあさんとは見合結婚で、苦楽を共にしてきました。（静雄さん）

生まれは荒谷なので、山の事は殆ど知らないで育ったのに、嫁に来てからは山の仕事も多く、大変苦労しました。しかし今は、四季折々の風景のすばらしさに感動しています。

孫は男二人女一人で、勉強が好きで親の言う事をよく聞き、心が優しく、孫は家の宝です。（久美子さん）

孫の事になると自然に顔がほころび将来を囑望しているようです。



後藤 静雄さん 久美子さん ご夫妻

お誕生おめでとー

平成十四年お誕生



まさる 勝ちゃん



とわ 永羽ちゃん



すこやかな成長を!!

- | | | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|
| ・後藤文俊氏長男
優斗さん | ・遠藤宏総氏次女
伊織さん | ・東海林良和氏長男
勝さん | ・原田正義氏三女
永羽さん | ・山田和人氏長女
愛華さん | ・中嶋 忍氏長女
希美さん | ・近藤健夫氏長男
聖長翔さん |
| （千手院） | （川原町） | （南院） | （芦沢） | （地藏堂） | | |
| ・増子英樹氏次男
理己さん | ・武田信一氏長女
加奈さん | | | | | |

話題の人

布施 くにさん

（地蔵堂）

（明治四十四年七月十二日生）

姉妹で囲碁を楽しむ



九十一才を迎えられたくにさんは腰は曲がったが、元気に日々を過ごされている。長年教職にたずさわり、山寺に教え子も数多い。近頃の生きがいとしては、畑仕事をする事。妹さんと囲碁をして勝っては喜び、負けては残念と、一日数番の勝負をする事もあるとか。又妹さんに「タオル」でのぬいぐるみの作り方や、紙細工も教えてもらい、作品を多くの方々に配ったり、公民館や、医院の窓口などに飾ったりするのを楽しみにしている。近年サイクリングロード（自転車道）周辺に何度か足をはこばれ、たぐさんの胡桃を拾い、クルミ豆腐を作られたとか……。

くにさんは山寺短歌会会員として長年作歌に励まれ、秀歌が毎月公民館報に掲載されている。ここに本人の好きな短歌二首を紹介する。

〈短歌〉

老いの身を いたはりながら
この年も 夫と守らむ 山の畑を

受賞・表彰

（敬称略）

- 第十三回全国「みどりの愛護」
国土交通大臣表彰
山形市長感謝状
- 山寺地区振興会
第十三回東北ブロック大会
東北PTA連絡協議会表彰
山寺小・中学校PTA
県知事感謝状・健康運動普及功労
武田 誠
- 「男女共同参画」に関する意見
優秀 柏倉 恵子
- 山形市花壇コンクール
優秀 地蔵堂花壇愛好会
- 山形市老く連合会長感謝状
遠藤 正治
- 山形市老く連役員功労者表彰
武田 武治

出場おめでとう（全国大会）

- 日中国交正常化三十周年記念（北京）
日中友好交流年中学生卓球大会
山寺中 二年 遠藤 佳祐
- 〃 〃 遠藤真奈美
- 全国中学校体育大会 卓球（群馬）
○全国中学校卓球カデット大会（大阪）
山寺中 二年 遠藤 佳祐

平成十四年の物故者 謹んでお悔やみ申し上げます

- 〈千手院〉
・後藤もも子殿・後藤 秋男殿
- 〈所部〉
・鏑水武次郎殿・武田 あき殿
・増子敬一郎殿
- 〈馬形〉
・安藤 訓子殿
- 〈川原町〉
・清原 さん殿
- 〈芦沢〉
・堀川 とく殿・山田ゆき子殿
- 〈宮崎〉
・森谷 忠一殿
- 〈地蔵堂〉
・布施 友子殿・小笠原健一殿
・矢萩誠四郎殿・矢萩伊三郎殿
- 〈中地蔵〉
・遠藤 障一殿・遠藤 次郎殿

編集後記

八年目を迎えた一月十七日、六千四百三十三人が犠牲になった、阪神淡路大震災、発生時刻の五時四十六分、鎮魂のため、新たな誓いと決意に包まれたといわれます。

山形にも大石田から上山まで活断層があるといわれています。まず地震が起きたら自分を守る、すばやく火の始末、戸を開けて非常口の確保、避難を早めに、又地震は必ずいつか起きるものだという意識を持ち防災について各自が心がけるべきでしょう。

さて第七号如何だったでしょうか。宝珠のしずくも工夫と創意を加えて編集しているつもりです。いつも精一杯やっておりますがなかなか思うようにはできません。ご意見ご感想など公民館までお寄せ下さい。尚、取材等にご協力下さいました方々に心から厚くお礼申し上げます。

編集委員

後藤哲夫・伊澤貞一・武田俊昭
武田 誠・遠藤まき子